

令和 8 年 7 月 24 日

令和 7 年度 特別の教育課程の実施状況等について

広島県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
広島大学附属小学校	国立大学法人広島大学	国立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
広島大学附属小学校	https://www.hiroshima-u.ac.jp/fu_midori_shou/about/about3

※必要に応じて行を追加すること。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
広島大学附属小学校	https://www.hiroshima-u.ac.jp/fu_midori_shou/about/about3	https://www.hiroshima-u.ac.jp/fu_midori_shou/about/about3

※必要に応じて行を追加すること。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

・計画通り実施できている ・一部、計画通り実施できていない ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

・実施している ・実施していない
--

<特記事項>

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

異文化理解や平和学習などに関わるコミュニケーション活動を発展的に展開するカリキュラムを作成し、英語力を培うことを目標としている。海外の学校との交流活動を行う際に、平和の話題を取扱って紹介するゴールに向けて、子供達が意欲的に取り組み、英語力の向上し、異文化理解が深まり、年々と交流の質が高まっている。

一方で、課題として、この特別な教育課程を他の学校への成果の普及や広がりがあげられる。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

平成 26 年～平成 29 年度の研究開発以降、教育課程の特例を活用して中学年の外国語活動の授業を増やし、その成果を踏まえて、高学年の外国語科の指導を充実させたカリキュラムである。その実践の成果としては第 6 学年の児童の状況として表れている。

課題としては、中高学年を通じた成果が大きく示されている一方で、教育課程の特例を活用した中学年「外国語活動」の学習の充実とその成果や、高学年「外国語」の学習への繋がり等、学年段階の評価が明確になっていないことである。

4. 課題の改善のための取組の方向性

特別な教育課程を実施することが目的ではなく、特例を実施する以上は、カリキュラムを評価し、次年度に向けて改善していくことが重要である。目標とする系統性のあるカリキュラムとするためには、中学年・高学年だけでなく低学年での指導も視野に入れたカリキュラムの改善が必要である。

また、研究の成果の普及のためには、カリキュラムの一部である児童に対する指導事例の紹介を行う必要がある。